

学校法人 尚綱学園 広報誌
SHOKEI EDUCATIONAL INSTITUTION
PUBLIC INFORMATION

礎

ISHIZUE

2003.December vol.01

創刊号

礎 連載コラム 教育の忘れもの | ①

読書とは“人間としての折る能力を高めることだ”
勉強とは“人間としてのやさしさが豊かになることだ”と言った人がいる。
即ち相手の立場に立つ知恵に基づき、自分の行為の意味を考え、
自分を常に全体の中にとけ込ませようと努力すること、
その知恵と実践力をみがき、育てることが勉強にほかならない。

やさしさや思いやりは、知識として学んでも殆んど役に立たない。
生活の中で実際に行動することを通して身につけていく徳性であろう。

いい人ほど勝手な人間になれないから、つらくて悲しいのです。

人間が動物と違うところは他人の痛みを自分の痛みのように感じてしまうところである。

ひよっとすると、いい人というのは、その人の胸の中に

自分のほかにどれだけ自分以外の人間が住んでいるか——ということが決まるのでしょう。

スーパーに賞味期限が五日後の牛乳と六日後の牛乳が並んでいると、

日本では殆んどの人が賞味期限の長いほうを買って行く。より新鮮であり、保存も長くもつからである。

しかし、アフリカの小さな村では、村人たちは賞味期限の切れそうなものから買って行くのだという。

貴重な食べ物を捨ててはいけない。

だから、賞味期限の迫ったものを自分を買って、より新しい食べ物は仲間たちに残すのだ。

仲間への思いやりのある消費、そして食べ物の総量が乏しいことを知っている消費。

どこの国よりも教育が行き届いていながら、日本の私たちの消費に他者はいない。仲間はいない。

まして、残された賞味期限の短い牛乳の行方を案じたり、考えたりする人はいない。

物のあふれる日本では、仲間の顔の見えない寂しさが人々を益々孤独な消費に走らせている。

ほんとうに豊かな社会とは、どちらの国のことだろうか。



尚絅学園 広報誌・創刊号巻頭特集
創刊記念座談会
Talk & Talk

創刊記念・理事長と語る

伝統を礎に、
 「深化」を続ける新しい形の
 良妻賢母を目指して

明治21年の創立以来、115年余りの歴史と伝統を持つ「尚絅」。
 尚絅五ヶ条に記された建学の精神を大切に受け継ぎ、
 育んできたわが学園は、さらなる未来へ向かって、
 どのように歩みを進めていくべきなのでしょう。
 そこで広報誌の創刊を機に、中学、高校、短大、大学を代表する
 4人の在学生が、江口吾朗理事長を囲んでの座談会を開催。
 自らの夢や学園の魅力を語り合い、
 理事長と一緒に現在の課題、将来の姿などを模索しました。



創刊にあたって

尚絅学園は明治二十一年創立の済々費附風女学校を原点とし、創立以来実に百十五年余の歴史を重ねて参りましたが、「尚絅」の文字に象徴される建学の精神ゆえに自らを広告することには消極的でありました。しかし、現今のごとき変化の激しい時代でありまして、学園として常に社会のニーズに応え本来の役割を全うするためには、日頃の学園の営みを広く人々に御理解いただきまますと共に、厳しく御批判いただき、それらを糧として日々改革に努めねばなりません。このような視点から広報誌を定期的に刊行することとし、この度漸くその創刊号を発刊する運びとなりました。
 本誌を手にして下さる皆様から「礎」としての忌憚なき御意見・御批判をお寄せいただくことができずば、この上なき幸に存じます。

尚絅学園 理事長 江口吾朗



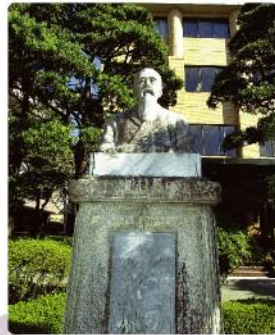
礎 いしずえ | vol.01 Contents

創刊にあたって	巻頭
巻頭特集【創刊記念座談会】	01
◆学園通信 真の国際人の育成に向けて 世界と地域を見つめる英語教育	06
尚絅学園史	10
キャンパス イベントリポート 学園インフォメーション	12
平成14年度決算報告	14
平成15年度予算報告	16
エッセイ 「教育—もうひとつの側面」	巻末
礎 連載コラム「教育の忘れもの」	

より良い明日の尚絅学園は 今を確かに歩むこと。

夢に近づくための
 大きな一歩が
 ここにありました。

理事長「本年1月から理事長に、また4月から学長に就任した江口です。わが学園は、115年余りの歴史と伝統があります。この伝統を大切にしつつ、二方では、私たちと学生の皆さんたちとで、新しい魅力にあふれた「尚絅」を創り上げていきたいと強く願っています。そこで今回は、学園に対する要望や、今後へ期待することなど、皆さんの率直な意見を伺いたいと思います。まず、何故当学園を選んだか聞かせて呉れませんか。」



ことを知ったのがきっかけです。実際に、充実した内容の留学を10カ月間体験し、夢に一步ずつ近づいていると実感しています。」
小川「尚絅短期大学で、栄養士の資格取得を目指しています。熊本県内で栄養士の資格が取れるのは、他には四年制大学だけなんです。ここでは2年という、半分の期間で資格を取得できるのが最大の魅力でした。」
横山「幼稚園教諭になるのが私



の夢です。短大に幼児教育科があります。特別推薦のことを考えると、高校から入学しておく方が有利じゃないかなと思いました。」
吉田「一番の理由は、教室が冷暖房完備されていること(笑)。公立の中学校より環境が整っているので、志望している公立高校の入試に向けて、集中して受験勉強できます。」

学園生活を通して、さまざまな考え方や行動力を身につけることができました

理事長「驚きました。それぞれに、しっかりとした目標をお持ちで安心しました。多数の学生がそうであってほしい。時に、実際の学園生活は、いかがですか。」
吉田「女子校なので、入学前はおとなしくて、おしとやかな人たちがいるというイメージを持っていました。しかし、皆、元気すぎるくらい元気。和気あいあいとしています。それに、職員室は、先生と雑談できるオープンな雰囲気



宮木「同学年の英文学科は24人と少人数。一方、先生の数は多い

ので、マンツーマンで教えてもらえることもあります。とても贅沢だなあと感じますよ。」
理事長「日本人は、自分の意見を主張するのは苦手な方ですが、人と多く交わった分、さまざまなことが学べますね。宮木さんは、留学を経験して変わったことが



しり。それに、出された宿題のほか、その日のうちに、予習や復習をしておかないと、講義についていけなくなってしまう。必死に勉強しました。私にとって一番プラスになったのは、「今すべきことは、今する」という基本的な習慣が身に付いたことです。留学前は、勉強を後回しにしていたに(笑)。」
理事長「宮木さんは素晴らしいことを身に付けて帰られましたね。アメリカの気質や文化に触れるだけでなく、生活に関する考え方の変化は、将来にとっても良い経験になったと思いますよ。留学は語学を学ぶだけではありませんから、ほかの学部でも希望者が留学できるようにしていきたいと思っています。なぜなら、経験は自信につながります。最近謂る「ゆとり教育」が注目を集めています。『ゆとり』とは、時間

これからは女性自身が理想とする新しい良妻賢母のイメージを創る時代

理事長「ところで、明治時代の創立以来の精神は、尚絅五ヶ条に掲げられているとおり。私たちが目指すのは、「尚絅」「貞操」「敬愛」「勤儉」「報恩」の精神を踏まえ、時代の世の変化に即応できる近代的で主体性をもった、良妻賢母です。このことについて、どう考えますか?」
横山「最近、共学になる学校が



増えていますが、私は必要性を感じません。女性ならではの優しさや連帯感を育んでいける学園だと思っています。」
宮木「良妻賢母」は、私にとって理想的な女性像。高校で先生に教えていただいた時は、実感がありませんでしたが、最近、友人が結婚したのを機に、女性のあるべき姿を考えました。そうしたら、大変素晴らしい精神だと気付きました。」



尚絅中学校3年
 吉田 麦穂さん
 生徒会長。ホームページコンテストでは、友人との共同作品で最優秀賞を受賞。



尚絅高等学校3年
 横山 彩子さん
 生徒会長として、全校生徒を束ねる責任感が強く、行動力があると定評あり。



尚絅短期大学
 家政科食物栄養専攻2年
 小川 奈央子さん
 厚生委員、教職実習副委員長。さまざまな学校行事に参加している。



尚絅大学英文学科
 コミュニケーションコース4年
 宮木 結加さん
 2年時に、アメリカネブラスカ州オマハ市セントメアリー大学に10カ月間の留学を体験。将来の夢英語教師。



理事長「若い人たちが賛成してくれるのは嬉しいことです。私も大賛成。しかし、女性ばかりに良妻賢母を押し付けるのはいけませんね。建学の精神は明治時代のもの。解釈によっては、女性は何ごとも夫に従い、子どものためにはどんな犠牲もいとわないという意にも捉えられます。しかし、これからの時代はとういうよりもむしろ元来、男性も良夫賢父であるべきなのです。そう考えると、尚綱五ヶ条は男女を問わず、普遍的な精神を唱ったものと言えるでしょう。そこで私は、建学の精神に近代性を備えさせるためには、どうしたらいいのかを思案しているんですよ。」



小川「古い考え方だと思つていましたが、今のお話を聞いて変わりました。今の時代に合った、新しいスタイルの良妻賢母のあり方を見つけていけばいいですね。」

**先輩方が築かれた
 伝統と歴史を大切にしたい
 女子校ならではの
 魅力ある学び舎づくりを**



理事長「最後に、皆さんがイメージする将来の尚綱学園に何を求め何を期待しますか。」

宮木「大学自体の目的がもっと明確になれば、学生ももっと目的意識を持つて学べるようになると思います。」

横山「私は生徒会長を務めていて、創立記念日に合わせて開かれる文化祭に特に力を入れています。ただ、開催日が平日で、一般公開されていません。なかなか他校生徒との交流ができないのが少し残念です。交流が活発になれば、さらに楽しい文化祭になると思います。また、中学と高校、短大、大学があるのに、それぞれにあまり交流の場がありません。例え

ば、学年の枠を取り払った行事などを、意図的に開催するのもいいかもしれない、と思います。」

小川「先輩方が築いてこられた伝統を大切にしながら、常に新しいことにチャレンジしていく学園です。学生たちが、毎日勉強をしに行きたいと思えるような学園つて、いいですよ。」

吉田「生徒皆が、のびのびと楽しく学べる場であつて欲しいと思います。中学校は少人数で、現在も雰囲気はとても良いのですが、生徒数が増えれば、もつといろいろなことができるんじゃないかなと思つています。」

点から考えると、非常に大きな意味を持っています。中・高・大学の「一貫教育を行う中で、さまざまな職業選択ができるというのが総合学園の最大のメリットの一つだといえますが、残念ながら当学園は選択肢が限られているのが現状。改善すべき課題だと思つています。また、社会が複雑化するにつれ、一つの職業や資格に対しても高いレベルが要求されるようになるでしょう。短大の一部の学科を、資格取得を考慮した四年制に移行させる必要もあります。私個人としては、入学試験を廃止して、好奇心おう盛な、魅力ある人材が集まるような入学制度にした方がいいんじゃないかなと思つています。そして、先程も強調しましたが真の意味での「良妻賢母」が育つ学び舎となることを目指したいですね。皆さんが、卒業後も尚綱学園の生徒であつたことを長く誇りに思つてもらえる場であり続けたいと思います。今日はありがとうございました。」

女性が生き甲斐を見出せる 一貫教育が行える体制づくり

今年、尚綱学園5代目理事長として迎えた江口吾朗氏。氏が、これから着手しようと考えている21世紀の女子総合学園の姿とはどのようなものなのか、今後の展望を伺いました。



将来の尚綱学園の姿に、共通するキーワードは「革新と深化」でしょう。学びたい人に、学ぶ場を提供する、本当の意味での大学づくりのために、あらゆる分野を深く掘り下げ、日々新に進んでいくことが重要です。

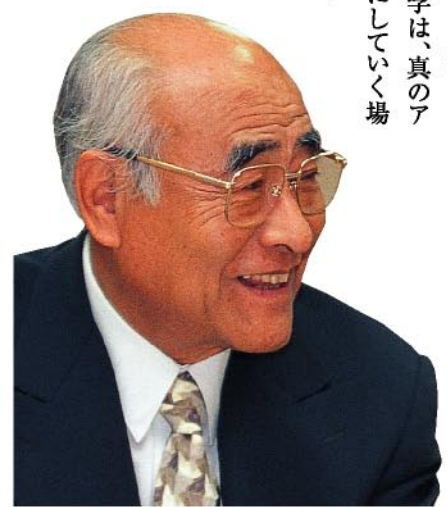
そのために、まず着手したいのが、短期大学の一部を四年制化すること。例えば、食物栄養専攻の卒業生は、就職率が高く、県下の栄養士の70%を占めています。しかし、四年制大学の卒業生に与えられる「管理栄養士」の資格を得るためには、実務経験が必要となります。今後、ま

ずまず求められるようになる高度な知識や専門性に、きちんと対応できる教育体制の整備を行いたいと思つています。家政科専攻科は、四年制化を見据えて設置されたものですし、社会的なニーズに応えるためにも、この専攻科を中核として、平成18年を念頭においた四年制化を目指しています。

中・長期的な目標としては、大学の改編です。総合学園として一貫教育を行えるという大学の最大のメリットは十分に活かされていません。現在、大学の学部は文学部のみ。英文学科と国文学科だけでは、選択肢が少ないと言わざるをえません。中学、高校と進学した生徒が、将来の選択肢に限りがあるからといって、同一学園の大学に進学できないのは、問題だと思つて

います。近代的で、社会に役立つ「良妻賢母」を育てるといふ、わが学園の目的、真の一貫教育のためにも、大学には学部、卒業後の進路において、多くの選択肢を備えたものにすべきでしょう。また、幼児教育の場の整備を進めることも大切です。

さらに、高齢者や本場に学びたいという地域の人たちが、若い学生たちと一緒に学ぶことができる体制づくりにも取りかかる予定です。大学は、真のアカデミズムを大切にしていける場であるべき。地域に密着した、誰もが生き甲斐を見出すことができ、総合的な大学へと深化させたいと思つています。



尚綱学園理事長
 尚綱大学・短期大学学長
江口 吾朗
 【プロフィール】
 昭和8年名古屋生。昭和31年名古屋大学理学部卒業。同大学理学部助手、京都大学理学部助教を経て、同51年名古屋大学理学部教授。以降、国立基礎生物学研究所教授、総合研究大学院大学教授(併任)等歴任。平成8年11月～14年11月熊本大学学長。同15年1月尚綱学園理事長に就任し、同年4月から尚綱大学・短期大学学長を兼務、現在に至る。なお、同年9月独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター-上席フェロー就任。

真の国際人の育成に向けて 世界と地域を見つめる英語教育

子どもの将来を 見据えた取り組み

いまや、世界の共通語ともいえる英語。その英語を使ったコミュニケーション能力を身につけ、高めていくことは、21世紀の国際化社会を生きて子どもたちにとって、非常に重要な課題になるでしょう。そこで当学園は、幼いころから英語に触れ、学び始める環境を整えることの大切さを熊本の地から伝

小学生英会話暗唱



主催：学校法人 尚綱学園

学習意欲を高める ための興味の喚起

当学園で行っているのは、使える英語、生きた英語に重点を置いた教育。その一環として、尚綱中・高校では、15年ほど前から学園独自のルートで、積極的にA・L・T(外国語指導助手)の導入を進め、その後は教育委員会よりあつせんしていただいています。また、6年前からは、全校挙げての英語検定にも取り組んできました。

目標を設定することが生徒たちの励みになり、達成感を味わえることで学習意欲は向上するものです。



え広げ、行動していきたいと考えているのです。

その特徴的なイベントが、尚綱中学校で開催している「オール熊本小学生英会話暗唱大会」。子どもたちが英語に親しみ、国際理解を深める場となることを目指し、昨年スタートしました。県内ではこのような発表の場や機会が少な

いだけに、指導者や保護者から大きな反響が寄せられました。

注目の第2回大会が開かれたのは、今年9月13日(土)。提出課題と自由課題の2部門に73組119名の参加がありました。緊張気味だった子どもたちでしたが、ステージ上では堂々と、豊かな表現で日頃の成果を披露。発音やイントネーション、訴える力など8項目にわたる審査の結果、佐敷小学校4年生の山本実佑さんがグランプリに輝きました。

中・高校におけるこれらの取り組みは徐々に成果を上げつつあり、高校生たちは高校英語スピーチコンテストの九州大会へ出場を果たすまでになりました。また、大学受験対策として、特別進学クラスでは英語のカリキュラムを多めに組み、英語が苦手な生徒に対しては、試験前や長期休暇中に学習会を開くなど、きめ細かな対応を行っています。



また、文化祭では尚綱大学の英文学科コミュニケーションコースの学生による留学体験スピーチも行っています。身近な先輩の話聞くことで、生徒たちは刺激を受け、英語を通して異文化への興味、理解が深まっている様子です。中学から大学まで一貫した思想のもとに教育を行い、小学生のころから英語に対する興味を喚起させる当学園の取り組みは、地域と世界に生きる真の国際人の育成に欠かせないものとなるでしょう。

尚綱が進めている 英語教育の改革

このような大会を企画し、実施した背景には、公立学校で導入された完全週5日制と、多くの小学校が「総合的な学習の時間」に英会話を取り入れていることが挙げられます。熊本の教育機関として、子どもたちの土、日曜日の有効活用に寄与すること、能力の開発や向上に役立つことこそ、英語教育に力を入れている当学園が果たすべき役割なのです。

大会開催の準備を進めていたころ、文部科学省から小学校の英会話活動を充実させる方策を盛り込んだ「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想」が打ち出されました。中学から大学まで、長期間にわたって英語を学ぶものの、日本人の多くは自己表現や外

熊本大学文学部 各川二郎教授 行動する学園の 英語教育に期待



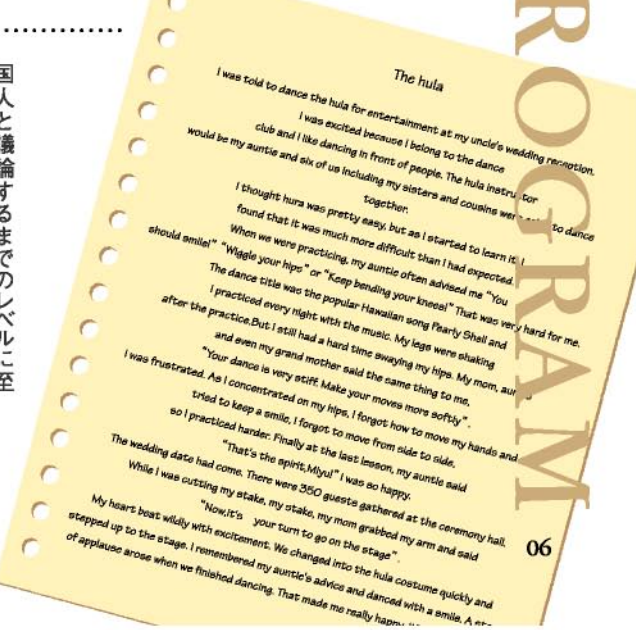
尚綱学園で開催された小学生による英語暗唱大会は、塾や英語教室ではなく学校としての取り組みでは、おそらく熊本市内初の取り組みでしょう。私は今回、その審査に当たりましたが、子供たちが、イントネーションやアクセント、発音、リズムをマスターした上で、自分の気持ちを表現できるレベルに達していたことに驚きました。英語を使いこなし、世界の舞台上に活躍する姿を想像することができ、大変嬉しく思いました。

現在、幼い頃から英語教育を行

国人と議論するまでのレベルに至らないのが現状。だからこそ、現在最も求められているのは、新しい時代に応じた教育方法の変革なのです。当学園が取り組む幼年期からの教育推進は、その先駆けといえるかもしれません。



グランプリ 山本実佑さんの
発表作「The hula」



うことについて、賛否両論があるのは事実です。幼児期に外国語の勉強を始めると、母国語の習得に影響を与える懸念する人もいます。しかし、小学校の授業で英語が取り入れられるようになることは考慮すべきことでしょう。

これまでの英語教育は、アルファベットからスタートし、単語・文法へと段階を経ていくものでした。しかし今後は、「音」から英語にアプローチする方法が、日本の英語教育を根本的に変え、新たな方向性を示すことになりそうです。国際社会の中で使える実践的な英語をマスターするためには、画期的な試みだといえるでしょう。そして、この尚綱学園の取り組みは、理論よりも実践先行タイプです。私は、その実践の中から、早期外国語取得の是非について、この結論が導き出されると大きな期待を寄せています。



谷川二郎教授

徹底した実践教育による スペシャリストの育成

中学、高校で培った基礎的な学力に加え、より専門的で実践的な英語力を身に付けることができるのが尚綱大学の文学部英文学科です。英米文化コースは、英米の文化や歴史に対する理解を深めると共に、英語でのコミュニケーション能力の向上と、実用的な英語の体得を目標にした幅広いプログラムが用意されています。

コミュニケーションコースは、姉妹校であるアメリカ合衆国ネブラスカ州のセントメアリー大学への、10カ月間にわたる留学がプログラムに組み込まれているのが特徴。英語教師を目指す学生、英語でのコミュニケーション能力を身に付けてスペシャリストを目指す学生の期待に応えています。これまでに10年以上の実績を持っていますが、留学を終える頃になると、どの学生も、飛躍的にヒアリング能力が伸び、発音も素晴らしいものに変化しています。留学先には尚綱大学生のためのプログラ

ムが用意されており、留学中に卒業に必要な単位の取得が可能。4年間で大学を卒業できるシステムの高さも高い評価を受けています。また、1学年(国文・英文学科合わせて)の定員100名に対し、教員数は23名。教授陣は、それぞれの専門分野を活かし、細やかな指導を行っているのも特徴の一つです。毎年7月に行う学内弁論大会や、11



異文化に触れることができた貴重な時間

尚綱大学英文学科コミュニケーションコース4年 石本恵美さん



1年間の留学を含んでも、4年間で卒業できるという整ったシステムがコミュニケーションコースの最大の魅力です。留学中は、講義に専念できただけでなく、先生方から精神的な面にまで細やかに気遣っていただいたことが大変印象に残っています。講義自体はとてもハードで宿題も多く、時間が足りないほどでした。アメリカの文化や習慣を体験したり、寮やホームステイ先で同世代の外国の方と交流できたことも刺激になりました。日本との違いを肌で感じ、それぞれの良さについて学び、考えることができたのは、私の大きな収穫です。

生きた英語を伝えられる英語教師が目標

尚綱大学英文学科コミュニケーションコース4年 中島優希子さん

留学の目的は、英語教師になる夢を叶えるため。留学直後にテロ事件が起きて不安もありましたが、多くの人に支えられて、最後まで頑張り通すことができました。その感謝の意を込めて、修了式にお世話になった先生方に、留学した全員で折った折鶴で作ったアメリカ国旗を贈り、とても喜んでいただきました。留学中には、語学力の向上はもちろん、精神的に大きく成長できたように思います。今後も、生きた英語をマスターし、英語をツールに、コミュニケーションでできる楽しさを生徒に伝えられる教師を目指したいと思っています。



月に開催される県内全域の女子高生を対象に開くレシーション大会、学外でのスピーチコンテストなど、意欲のある学生のために、さまざまな発表の場を設けています。今後は、中学、高校、大学の枠組みを越えて連携を図ることを目指し、仕組みづくりが進められています。

生きた英語の修得が 将来の道を拓く

英語の修得はもとより、外国人の日常生活に対する考え方や情報を知ることの大切さを身につけることができる留学体験。当学園では、その留学システムの充実をはかり、聞く、話す、表現する力を備えた実践的な英語のスペシャリスト養成に力を注いでいます。アメリカで集中して勉強に励み、帰国後には学ぶことに対する意識が変化したという学生が多いことから、その成果がうかがえます。この体験は、大学卒業後の進路に



も大きな影響を与えています。例えば、熊本県の教員採用試験は、話す能力を重視する傾向にあり、そのため、海外で生活した経験は、学生たちに変な自信を与えているようです。実際、県内で15名だった昨年度の教員採用試験の合格者のうち、当学園の出身者は2名という実績があります。また、TOEFLや英語検定などで高得点を取るなど、英語を「学問」としてとらえるだけでなく、生きた言葉として体得する教育方針が、未来の選択肢を広げる結果に繋がっているのです。

中学校から大学まで。 一貫した思想を英語教育の現場に

当学園は、中学から大学まで、一貫した思想に基づいた教育の実践に努めています。その大きな柱が、就職の際の選択肢に幅広い道を拓く英語教育といえるでしょう。国際語ともなりつつある英語ですが、私は、英語を「生きた言葉」として身に付けるために、私学ならではの体系的な学習方法に沿って勉強を続けることが非常に重要だと考えています。幼年期から学び

始め、中学、高校、大学を経るうちに、自然と本当の英語の能力が磨かれていくことに、これからの時代に求められている英語の学び方なのではないでしょうか。尚綱学園では、中学生から大学の文学部英文学科にいたるまで、英語教育の改革ともいえる学習方法を取り入れています。暗唱大会や、コミュニケーションコースにおける留学システ

ムなどがその一例です。年齢に合わせたプログラムの設定で、より実践的な「役に立つ」英語教育に力を注ぐことが、今後、社会で役に立つ人材の育成に繋がると考えているからです。私たちが目指しているのは、外国でも物おじすることなく、きちんと自分の意見を伝え、コミュニケーションをとることができる人材の育成。そのために、英語を学ぶ意欲を持つ人の学習環境を、今以上に整えていくことを目標にしています。

尚綱学園理事長 江口吾朗

失敗を怖れない勇気を与えてくれた日々

尚綱大学英文学科コミュニケーションコース4年 久保田真子さん



留学中は、出会いの大切さを実感しました。日常会話程度なら自信があったものの、最初の頃は文法を気にするあまり、なかなか自分の気持ちを表現できなかったのです。そんな時、ホストファミリーの方から「アメリカ人でも正確な文法を使える人はいないよ」と言われ、ホッとしていました。以降は、得意分野の話題などでコミュニケーションがとれるようになり、充実した時間を送ることができました。失敗を怖れない勇気を教えてくれたホストファミリーに出会えたこと、それが新たな出会いに繋がることができたことに、感謝しています。

濟々養附屬女學校創立ノ趣旨

濟々養養長 佐々友房



女子モ亦國家ヲ組織スルニ重要ナル一分子タルヲ知ラバ女子教育ノ必要ヲ悟ルニ足ラン彼ノ妙齡ナル女子ガ遂ニ良妻タリ賢母タルヲ知ラバ以テ女子教育ノ必要ナルヲ悟ルニ足ラン其良妻トシテ家政ヲ經紀シ男子ヲ補翼シ其賢母トシテ子女ヲ教育シ且ツ博愛慈善ノ源泉タルヲ知ラバ亦以テ女子教育ノ必要ナルヲ悟ルニ足ラン今ヤ我輩此ニ見ル所アリ爰ニ本校ヲ創立シ大ニ女子教育ノ事ヲ擴張セント欲ス

方今教育大ニ進歩シ女子教育モ亦盛ナラズトセズ然ルニ我輩女子教育ノ弊ヲ見ルニ或ハ封建ノ餘習ヲ墨守シテ徒ラニ舊轍ニ拘泥シ女大學烏丸等ヲ以テ其主義トシ明治昭代ノ女子ヲシテ文明ノ婦人タラシムル能ハザルモノアリ或ハ智識ヲ偏尚シテ徳義ヲ輕忽シ虚飾ニ流レテ實行ヲ失シ其ノ弊タルヤ女子ノ淑徳ヲ損ジ我カ邦ノ美風ヲ失スルモノアリ此二者共ニ偏スル所アルヲ免レズ是レ豈ニ中正ノ道ナランヤ若シ夫レ文質彬彬々智徳並進シ婉淑從順ノ徳ニ加フルニ凜然タル貞操節義ヲ以テスルモノハ是レ誠ニ我輩ガ望ム所ナリ

(明治二十一年五月日)

「創立の趣旨」に想う

尚綱学園は明治二十二年(一八八八)年濟々養附屬女學校として設立された。今から百年前のことである。一口に百年というが、百年も命脈を保つということは、一人の人間、一法人に限らず容易なことではない。況んや明治維新以来、国の命運を賭けた日清・日露・日中戦争・太平洋戦争を含めて、いわゆる近代化による激しい社会の変遷を想えば、国家の保護下でない一私学が、百年の風雪に耐えて、今日まで立派に生き延びて来たということは、その事実だけでも刮目(さくもく)に値しよう。それだけに、先学の苦勞も並大抵ではなかったことが偲(おも)ばれるが、まず、創立の趣旨から考えることにする。

ところで、この創立の趣旨は、尚綱百年の歴史をつらぬく精神であり、百年前に書かれたこの趣旨を、表面的な意味はともかく、当時の激動する社会の中で、設立者たちが、どのような気持をこめて書いたのか、その事を遠近法を誤らずに理解することは容易なことではない。現代社会の通念や、教育理念に照らして、尤もらしい批判的な意見を述べることは何と易しいことだろうと思う。しかし、そんなことをしたところで何の足しにもなるまい。困難ではあるが、あらゆる先入観を捨てて、設立者たちの真意に到達するにはどうすればよいのか。そんな事を考えながら何日もこの文章を眺めている。

(尚綱学園百年史より)

尚綱学園百十五年のあゆみ

明治二十年五月

濟々養養長 佐々友房 熊本市昇町に濟々養附屬女學校を開設
初代校長 内藤儀十郎就任 校舍二十一坪 生徒数二十三名



初代校長内藤儀十郎



明治30年頃の通学服

- 同 二十二年五月 昭憲皇太后より御歌「待春」を下賜さる
- 同 二十四年十月 濟々養より独立して尚綱女學校と改称
- 同 四十五年四月 第二代校長 福岡綱雄就任
- 同 四十五年五月 尚綱財団法人設立 内藤儀十郎校長となる
- 大正 八年八月 内藤儀十郎卒し、内藤辰熊校長となる
- 同 九年十月 位置変更先大江村九品寺に校舍竣工し落成式を挙行
- 同 十三年三月 第三代校長 浜田松次郎就任
- 昭和 四年四月 尚綱五ヶ条制定
- 同 六年十月 県下女學校の代表校として天皇行幸
- 同 二十年十月 第四代校長 築山與傳就任



昇町時代の裏門(明治40年頃)



昇町教会正面玄関(明治40年頃)



大正9年頃の校舎(贈物は昇町より九品寺に移転)

- 同 二十二年四月 学制改革により尚綱中學校発足
- 同 二十三年四月 学制改革により尚綱高等學校発足
- 同 二十五年六月 第五代校長 光島賢正就任
- 同 二十六年三月 従来の尚綱財団を學校法人尚綱学園に改組
初代理事長 光島賢正就任
- 同 二十七年四月 熊本女子短期大學家政科を置く
初代学長 光島賢正就任
- 同 四十年 熊本市と菊陽村にまたがって
第二校地を購入取得
- 同 四十二年四月 短期大學家政科を家政科家政専攻と
家政科食物栄養専攻に分離
- 同 四十三年四月 短期大學に幼児教育科を置く
- 同 四十四年四月 短期大學幼児教育科に附屬幼稚園開園
初代園長 大岡尚之就任
- 同 四十七年十月 尚綱学園第二代理事長 内藤宏就任
- 同 五十年四月 尚綱大學開学 文学部(国文学科)を置く
初代学長 宇野精一就任
- 同 五十年四月 熊本女子短期大學を尚綱短期大學と改称
- 同 六十年十二月 昭和天皇より御製「はなしのぶ」を下賜さる
- 同 六十二年五月 学園創立百周年記念式典挙行
- 平成 元年三月 尚綱学園第三代理事長 宇野精一就任
- 同 八年四月 短期大學に専攻科(食物栄養専攻)を置く
- 同 九年四月 尚綱学園第四代理事長 外村次郎就任
- 同 十五年一月 尚綱学園第五代理事長 江口吾朗就任



第五代理事長 江口吾朗



第四代理事長 外村次郎



第三代理事長 宇野精一



第二代理事長 内藤宏



初代理事長 光島賢正

尚綱高校 体育祭

人文字で作る“心輝く尚綱”伝統のマスゲームを披露

9月19日(金)、水前寺競技場にて尚綱高校体育祭が開催され、晴天の中、全校生徒爽やかな汗を流しました。徒競走、技巧走などの競技種目の他、体育祭の華となったのは50年以上続く伝統のマスゲーム。6月から練習をはじめ、各学年個性ある演技を披露し、1年生は心、2年生は輝、3年生は尚綱と人文字を作りフィニッシュ。平

日にも拘わらず応援にかけつけた来賓・保護者の方々に魅了しました。「美しく演技するだけでなく、協力しあう、工夫する、努力するという中で、達成感を感じているようです」と体育科の坂井裕子先生。「後輩にもしっかり受継いで欲しい」と、生徒たちも心を一つにして取り組んだ経験を大切にしたいと話していました。



尚綱中学・高校 コンサート

在校生～卒業生まで3世代が共演第6回「尚綱コンサート」開催

尚綱中学校・高等学校の第6回「尚綱コンサート」が10月4日(土)、熊本県立劇場コンサートホールで開催されました。音楽部、高校の音楽選択者、保護者、卒業生など約300名が参加。12歳～80歳代まで、3世代に渡る尚綱ファミリーが集まり、アットホームなコンサートとなりました。今年はギター・マンドリン部とバレエの共演など、芸術性の高いステージにも取り組み、フィナーレにはギター・マンドリンの演奏で「ハレルヤ」を大合唱。企画を行った音楽科の甲斐正哉先生は「ステージに立つ側はもちろん、観ている生徒たちにとってもいい刺激になったのでは」と、来年も新しい試みを取り入れたコンサートを企画したいと話していました。



尚綱中学 北仁川女子中学校

韓国の「北仁川女子中学校」の生徒と
なごやかな雰囲気国際交流体験

8月4日(月)、尚綱中学に韓国の北仁川女子中学校の100名の生徒が来校しました。当日は、本学の生徒との交流がはかられ、有意義な夏の日を過ごすことができたようです。

一連の歓迎行事の中では、尚綱中学2年の松田結花さんがハングル語を使って歓迎の挨拶の辞を述べる一幕も。北仁川女子中学校の生徒たちからは一斉に大きな拍手がわき起こり、一気に生徒間の距離が縮まった様子。歓迎行事は、終始親しみに満ちた笑顔と、なごやかな雰囲気で行進しました。その後の中学生同士の交歓会では、一緒にカメラに取まったり、ジェスチャーを交えながらの会話を楽しんだり…。両国の生徒ともに、思い出に残る国際交流の体験の場となりました。



北仁川女子中学校の生徒達 生徒代表 2年松田結花さんの挨拶

尚綱中学校

- 平成15年11月21日(金) 校内計算力大会
- 平成15年12月3日(水) 校外学習活動
- 平成15年12月9日(火)～12日(金) 2学年修学旅行
- 平成15年12月21日(日) 第1回入学試験
(奨学生・専願生・特待特待生)
- 平成15年12月22日(月) ピアノ発表会

尚綱高等学校

- 1学年 修学旅行
関東方面(東京・日光・鎌倉・横浜・ディズニーランド)
平成15年12月1日(月)～12月5日(金)
- 入学試験(奨学生・推薦生)
出願期間：平成16年1月16日(金)～1月21日(水)
選考期日：平成16年1月29日(木)
入試会場：本校・天草シーサイドホテル
合格発表：平成16年2月3日(火)午前10時
- 入学試験(一般生)
出願期間：平成16年2月4日(水)～2月9日(月)
選考期日：平成16年2月17日(火)
入試会場：本校・天草シーサイドホテル
合格発表：平成16年2月20日(金)午前10時

尚綱大学・短大 キャンパス見学会

大学・短大の特徴を伝えるキャンパス見学会に
県内外から多くの高校生が参加しました

大学を訪れた高校生は、本学在学生の案内によるキャンパスツアーで、まずは“大学”の雰囲気を感じ取ったようです。書道の実技指導や外国人講師による模擬講義なども大変好評でした。留学ビデオ放映コーナーでは、留学の様子を食い入るように見る高校生の姿が印象的でした。最後にティータイムを挟んだ在学生との懇談で、高校生は十分に本学の学生生活

を理解したようです。短期大学では600名を超える参加があり、家政科、幼児教育科ともに昨年を上回りました。最近では2年生の参加も増えています。学科紹介や入試説明、キャンパスツアーの他、「インターネットを体験してみよう!」、「健康作りのための食生活と運動」、「乳児の育ちと関わり」など、各科の特色を出した模擬授業も行われました。



尚綱大学

- 平成15年11月8日(土)～9日(日) 第26回檢木祭
- 平成15年11月8日(土) 第3回熊本県高等学校女子英語レシテーション大会
- 平成15年11月26日(水)～30日(日) 第26回尚綱大学書道展(県立美術館分館)
- 平成15年12月13日(土) 日本語文書処理技能検定試験
- 平成16年1月25日(日) 文部科学省認定硬筆書写検定・毛筆書写検定試験
- 平成16年2月14日(土) ビジネスコンピューティング検定試験
- 平成16年2月17日(火)～22日(日) 第23回尚綱大学卒業制作展(県立美術館分館)
- 平成16年2月25日(水) 「尚綱大学研究紀要」第27号 発行予定
- 平成16年3月19日(金) 第26回卒業式(熊本県立劇場演劇ホール)

入試

◆募集人員 <文学部> 国文学科 50名、英文学科 50名 合計 100名
◆平成16年度選考日程

選考区分	出願期間	選考日	合格発表	入学手続期限
特別推薦(専願) 推薦(専願)(併願)	平成15年 11月4日(火) ～11月14日(金)	平成15年 11月18日(火)	平成15年 11月20日(木)	平成15年 12月5日(金)
外国人留学生				
自己推薦(専願) (社会人を含む)	平成15年 12月1日(月) ～12月9日(火)	平成15年 12月11日(木)	平成15年 12月12日(金)	平成15年 12月24日(水)
第1回試験	平成16年 1月19日(月) ～1月30日(金)	平成16年 2月4日(水)	平成16年 2月6日(金)	平成16年 2月20日(金)
編入学				
第2回試験	平成16年 2月23日(月) ～3月5日(金)	平成16年 3月9日(火)	平成16年 3月11日(木)	平成16年 3月25日(木)
編入学				
自己推薦(専願) (社会人を含む)	平成16年 3月8日(月) ～3月19日(金)	平成16年 3月23日(火)	平成16年 3月24日(水)	平成16年 4月2日(金)

尚綱短期大学

- 秋陽祭(文化祭) 期 日：平成15年11月7日(金)～9日(日)
場 所：九品寺校地、楡木校地
内 容：研究発表・バザー・カラオケ大会等
- スポーツ大会 期 日：平成15年12月4日(木)
会 場：熊本市立体育館
内 容：ソフトバレーボール大会
- 定期試験関係
 - ・2年後定期試験
平成16年2月4日(水)～2月10日(火)
 - ・1年後定期試験
平成16年2月19日(木)～2月26日(木)
- 卒業式 期 日：平成16年3月19日(金)
会 場：熊本県立劇場演劇ホール

入試

◆家政科、幼児教育科

選考区分	期 日	出願期間	選考日	合格発表	入学手続き 入学金納付 書類提出
推薦(専願) 社会人・ 外国人留学生入試		平成15年 11月4日(火) ～11月13日(木)	平成15年 11月19日(水)	平成15年 11月27日(木)	平成15年 12月5日(金)
第1回試験		平成16年 1月13日(火) ～1月21日(水)	平成16年 1月27日(火)	平成16年 2月4日(水)	平成16年 2月13日(金)
第2回試験		平成16年 2月25日(水) ～3月5日(金)	平成16年 3月10日(水)	平成16年 3月17日(水)	平成16年 3月25日(木)
専攻科 前期試験		平成16年 1月13日(火) ～1月21日(水)	平成16年 1月27日(火)	平成16年 2月4日(水)	平成16年 2月13日(金)
専攻科 後期試験		平成16年 2月25日(水) ～3月5日(金)	平成16年 3月10日(水)	平成16年 3月17日(水)	平成16年 3月25日(木)

平成14年度決算報告

1 はじめに

学校法人尚綱学園の平成14年度決算は、監事および公認会計士の法定監査を経て平成15年5月23日の評議員会・理事会に報告し承認されました。その決算の概要につきまして、ここに掲載いたしました「消費収支計算書」をもとに、予算との対比でご説明いたします。この消費収支計算書は学生生徒納付金や補助金等の帰属収入と、人件費や教育研究経費等の消費支出との均衡状態を明らかにし、学園全体の経営状態を把握するためのものです。ただし、帰属収入から学校法人の永続的維持のために必要不可欠となる資産の源泉収入を消費支出に充当させないために、基本金への組入額をマイナスして消費収入とするという学校法人会計固有の特徴を有しています。

2 消費収入の概要

まず収入は、学生生徒等納付金をはじめとし、寄付金、補助金等の主な収入科目において予算を上回りました。このうち学生生徒等納付金は、学園全体での在籍学生・生徒数が前年度比20名増加したことにより予算額を993万円上回る16億2946万円となりました。帰属収入全体に占める学生生徒等納付金の割合は73.0%と収入の重要な根幹となっています。また、

3 消費支出と収支の概要

一方支出では、人件費および教育研究経費等あらゆる費目で支出の削減に取組んだことにより、全ての支出科目において予算額を下回りました。このうち教育研究経費は、予算額を8865万円下回る4億6372万円となりましたが、これは大学校舎の修繕工事を翌年度に繰り延べたことが最大の要因であります。教育研究設備の充実お

よびその環境整備につきましては最優先で支出すべきであると考えて予算を計上しておりますが、工法や工事期間の関係からやむを得ず繰り延べたことによるものであります。また、直接教育研究の用に供さない管理経費につきましてもその削減に努めた結果、予算額を605万円下回る1億652万円となりました。これらの結果、消費支出の部合計は予算額を1億1429万円下回る2億2669万円となりました。

以上により、平成14年度の消費収入超過額は5223万円となり、消費収入超過額の累計額は前年度の2億4021万円から2億9244万円に増加しました。

4 おわりに

これまで「消費収支計算書」をもとに平成14年度決算を簡単に説明いたしました。今後は教育研究条件の整備拡充と質的向上及び学園財政の健全化維持のため、収入確保を中心とした積極的な財務戦略を展開してまいります。また、財務諸表をはじめとする情報公開にも積極的に取り組むことにより、学校運営の状況がよりご理解いただけるよう努力してまいります。今後とも、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学園事務局 経理課

資金収支計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで) 単位:千円(千円未満切捨)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,620,127	1,629,463	-9,336	人件費支出	1,432,480	1,405,889	26,590
手数料収入	33,950	33,805	144	教育研究経費支出	346,414	284,812	61,601
寄付金収入	4,300	7,714	-3,414	管理経費支出	61,642	58,885	2,756
補助金収入	433,450	443,290	-9,840	借入金等利息支出	42,842	42,841	0
資産運用収入	16,890	17,681	-791	借入金等返済支出	136,780	136,780	0
資産売却収入	500	20,807	-20,307	施設関係支出	26,766	24,760	2,005
事業収入	100	118	-18	設備関係支出	38,261	39,148	-887
雑収入	97,422	98,720	-1,298	資産運用支出	154,000	156,497	-2,497
前受金収入	400,750	432,462	-31,712	その他の支出	83,848	79,846	4,002
その他の収入	127,570	126,487	1,082	予備費	10,000	-	10,000
資金収支調整勘定	-480,458	-545,857	65,399	資金支出調整勘定	-25,000	-34,727	9,727
前年度繰越支払資金	604,104	604,104	-	次年度繰越支払資金	550,672	674,064	-123,392
収入の部合計	2,858,705	2,868,798	-10,093	支出の部合計	2,858,705	2,868,798	-10,093

貸借対照表 (平成15年3月31日) 単位:千円(千円未満切捨)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	11,088,996	11,089,264	-267	固定負債	1,531,052	1,660,476	-129,423
有形固定資産	5,332,172	5,494,008	-161,836	長期借入金	993,610	1,130,390	-136,780
土地	985,603	971,626	13,977	退職給与引当金	537,442	530,086	7,356
建物	3,207,254	3,319,510	-112,256	流動負債	640,406	629,087	11,319
構築物	93,641	109,492	-15,851	短期借入金	136,780	136,780	0
教育研究用機器備品	265,475	312,954	-47,479	未払金	34,727	18,955	15,771
その他の機器備品	57,229	73,448	-16,219	前受金	432,462	440,458	-7,996
図書	722,968	706,975	15,993	預り金	36,437	32,892	3,544
車両	0	0	0	負債の部合計	2,171,458	2,289,563	-118,104
その他の固定資産	5,756,824	5,595,255	161,568	資本金の部			
借地権	300	300	0	科目	本年度末	前年度末	増減
敷金	132	132	0	第1号基本金	7,784,413	7,636,461	147,952
電話加入権	2,484	2,484	0	第3号基本金	150,179	145,165	5,014
施設利用権	920	1,421	-500	第4号基本金	148,000	148,000	0
出資金	8,906	8,906	0	基本金の部合計	8,082,592	7,929,626	152,966
長期貸付金	20,399	14,827	5,571	消費収支差額の部			
退職給与引当特定預金	550,005	550,000	5	科目	本年度末	前年度末	増減
減価償却引当特定資産	1,600,018	1,500,000	100,018	翌年度繰越消費収入超過額	2,092,449	2,040,216	52,232
施設設備引当特定資産	3,423,477	3,372,019	51,458	消費収支差額の部合計	2,092,449	2,040,216	52,232
第3号基本金引当資産	150,179	145,165	5,014	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,346,500	12,259,406	87,094
流動資産	1,257,504	1,170,142	87,361				
現金預金	674,064	604,104	69,959				
未収入金	105,219	67,681	37,537				
有価証券	478,084	498,277	-20,192				
仮払金	135	78	57				
資産の部合計	12,346,500	12,259,406	87,094				

(注記)
1. 減価償却額の累計額の合計額 3,104,691千円
2. 担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。
土地 447,486千円

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	55,093千円	15,246千円
その他の機器備品	2,677千円	2,258千円
車両	11,638千円	1,938千円

消費収支計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで) 単位:千円(千円未満切捨)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,620,127	1,629,463	-9,336	人件費	1,423,010	1,413,425	9,584
手数料	33,950	33,805	144	教育研究経費	552,384	463,725	88,658
寄付金	4,300	8,019	-3,719	管理経費	112,578	106,523	6,054
補助金	433,450	443,290	-9,840	借入金等利息	42,842	42,841	0
資産運用収入	16,890	17,681	-791	借入金等利息	42,842	42,841	0
資産売却差額	500	615	-115	徴収不能額	0	180	-180
事業収入	100	118	-18	予備費	10,000	-	10,000
雑収入	97,422	98,900	-1,478	消費支出の部合計	2,140,814	2,026,695	114,298
帰属収入合計	2,206,739	2,231,894	-25,155	当年度消費収入超過額	-96,136	52,232	-
基本金組入額合計	-162,061	-152,966	-9,094	前年度繰越消費収入超過額	2,040,216	2,040,216	-
消費収入の部合計	2,044,678	2,078,928	-34,250	翌年度繰越消費収入超過額	1,944,080	2,092,449	-

平成15年度予算報告

学校法人尚綱学園の平成15年度予算は、教育研究活動の環境整備や学生サービスの向上のために、一層効率的な資金配分が行われるよう編成作業を行い、平成15年5月23日の評議員会・理事会で承認されました。まず収入は、帰属収入合計で前年度決算額比8090万円減少の21億5099万円となりました。学生生徒等納付金が施設設備資金等の値上げもあり同457万円増加するものの、雑収入が退職金財団交付金の減少により同6778万円減少し、手数料、寄付金、補助金等その他の主要な収入も減少するためであります。帰属収入から差引くことになる基本金組入額は、同3705万円減少の1億1591万円となり、消費収入の部合計は20億3507万円となりました。

一方支出では、一部校舎の修繕計画がスタートすることや奨学金の支給対象者が増えることに伴い、教育研究経費が前年度決算額比9469万円増加し、5億5841万円となりました。人件費が同1億553万円の大規模な減少で13億789万円となるものの消費支出の部合計では同2420万円増加の20億5089万円を計上することとなりました。

これらの結果平成15年度の消費収支差額は1581万円となりほぼ収支均衡予算となりました。収支については以上ご説明したとおりですが、収入の維持・確保が厳しい環境下にあることを自覚し、引き続き経費の支出削減に努めながらも、将来的な教育研究環境の向上に備え財務基盤をより充実していくための特定資産や基金への積み増しは継続的に行っております。

学園事務局 経理課

消費収支予算書 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

単位:千円(千円未満切捨)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	1,634,035	1,620,127	13,908	人 件 費	1,307,895	1,423,010	-115,115
手 数 料	30,329	33,950	-3,621	教育研究経費	558,418	552,384	6,034
寄 付 金	4,700	4,300	400	管 理 経 費	127,080	112,578	14,502
補 助 金	439,000	433,450	5,550	借入金等利息	37,502	42,842	-5,340
資産運用収入	11,409	16,890	-5,481	予 備 費	20,000	10,000	10,000
資産売却差額	300	500	-200				
事業収入	100	100	0	消費支出の部合計	2,050,895	2,140,814	-89,919
雑 収 入	31,117	97,422	-66,305	当年度消費支出超過額	15,818	96,136	
帰属収入合計	2,150,990	2,206,739	-55,749	前年度繰越消費収入超過額	2,092,449	2,040,216	
基本金組入額合計	-115,914	-162,061	46,147	翌年度繰越消費収入超過額	2,076,630	1,944,080	
消費収入の部合計	2,035,076	2,044,678	-9,602				

資金収支予算書 (平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

単位:千円(千円未満切捨)

収入の部				支出の部			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	1,634,035	1,620,127	13,908	人件費支出	1,309,730	1,432,480	-122,750
手数料収入	30,329	33,950	-3,621	教育研究経費支出	359,875	346,414	13,461
寄付金収入	4,700	4,300	400	管理経費支出	82,093	61,642	20,451
補助金収入	439,000	433,450	5,550	借入金等利息支出	37,502	42,842	-5,340
資産運用収入	11,409	16,890	-5,481	借入金等返済支出	136,781	136,780	1
資産売却収入	300	500	-200	施設関係支出	31,322	26,766	4,556
事業収入	100	100	0	設備関係支出	35,087	38,261	-3,174
雑 収 入	31,117	97,422	-66,305	資産運用支出	154,000	154,000	0
前受金収入	400,750	400,750	0	その他の支出	103,164	83,848	19,316
その他の収入	165,354	127,570	37,784	予 備 費	20,000	10,000	10,000
資金収入調整勘定	-472,462	-480,458	7,996	資金支出調整勘定	-25,000	-25,000	0
前年度繰越支払資金	674,064	604,104	69,960	次年度繰越支払資金	674,143	550,672	123,471
収入の部合計	2,918,697	2,858,705	59,992	支出の部合計	2,918,697	2,858,705	59,992

教育——もうひとつの側面

教育という営みの中には、知識を教えることや情報を覚えさせること、もうひとつは人間として訓練しながら将来の常識ある社会人として最小限のことを身につけさせるという二つの動きがある。学習塾に通わせられている親の目的、願いは、前者の能力を高め、高学歴社会の中で有利に生きていって欲しいというところであらう。

後者については、通知表に記入されることも数値で表すこともできないけれど、その子供の人生を豊かにする真の意味の学力、即ちそれは生きる力を養うべく、与えてあげることである。頭だけでな、手や足を動かすことによって身につけるものを大事にする教育をもって推し進めていく必要がある。

今の子供たちを見つめ、目的を達するためにいかにして人に勝つか、いかにして邪魔者を排除するかなどを訓練させられているように思える。

他人への対応が、攻撃や排除ばかりとなって、他人や弱者への思いやりや優しさなどなくなってしまう。助け合っているという側面が、教育の場の中から失われてしまっているような気がする。むしろ学校がいやおうなしにそんな仕向けてきたのではないだろうか。

類に汗して働いて、身近なことに奉仕する精神は本来とても大事なところであるはずなのに、競争に勝つためにムダなことばするなど大人たちが、教えてきたようである。

もっと平凡で地味なことをコツコツやることに高い評価を与え、自信と誇りをもたせたい。障害者や高齢者に対するいざわりやあたたかさの心の中心に育つ人間を育ててゆきたい。人への援助は、決して物や金だけではない。本も読まず、集団での遊びの中で社会体験も乏しい子供たちは、空でもあつと考える。

編集後記

「学園の全体像を分かりやすく伝えつつ、楽しく読んでいただける広報誌を作ろう。」
 広報誌の制作に関してはまったくの素人である私たちがこのような目標を掲げ、取り組み始めたのは初夏でした。とはいえ、広報誌の発行は学園にとっても初めての試み。内容の検討、登場してもらう人材の選定と、一つずつ試行錯誤を繰り返しながら丁寧に進めてきたつもりです。しかし、「今の尚綱学園」をうまく表現することができたかどうか、振り返ると不安も多々あります。

創刊にあたり、誌名は学生・教職員から公募し、決定しました。また、表紙の意匠は江口吾朗理事長の手になるものです。最後になりますので、この広報誌が、学園内に止まらず、わずかでも地域と社会の発展の一翼を担うものとなれば、と祈念しています。